

会 議 録

1 会議名

令和3年度第3回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和3年度社会教育委員による事業訪問について（公開）

(2) 令和4年度事業計画・予算案について（公開）

3 開催日時

令和4年2月21日（月） ※書面開催

4 開催場所

—

5 傍聴人の数

—

6 非公開の理由

—

7 書面会議に参加した者の氏名（敬称略）

・委員：秋山玉江、池田洋子、石田浩久、茨木真、江村奈緒美、勝俣将明、
小林榮、小林英子、流石光信、佐藤ゆかり、鈴木重行、高橋京子、
土屋郁夫、保坂和彦、松井和代、百沢ちかい、森田浩、柳澤嘉孝、
山川美香、渡邊恵美

・事務局：教育委員会 社会教育課 社会教育係

8 内容（要旨）

(1) 議事

①令和3年度社会教育委員による事業訪問について

【保坂委員長】

先に示した社会教育委員の「意見・要望・提案書」を踏まえて、市としての検討結果が逐条的に述べられている。現状を踏まえた改善可能な具体策と

なっている。小さな改善を積み上げていく方向性が大切だと思う。

例えば、事業名「ふるさと未来づくり事業」の標示は、「たかが標示、されど標示」である。いつでもその標示に戻り、再確認していく水先案内のようなものである。それがあるのと無いのとでは大きな違いがある。その真意を、公民館主事・参加者・協力者が相互に共通理解していただきたい。

二つ目は、各回の講座の学びの姿を視覚化してほしい。毎回、前回までの学びの過程が分かるように掲示できれば素晴らしい。参加者の共通理解や学びの成果の共有にもつながるものである。

三つ目は、地域の課題をとらえることは限られた時間の中で困難を伴うであろう。可能であれば、公民館主事が地域協議会会議にオブザーバーとして出席し、地域住民がどのような課題意識を抱いているか探ることも必要だと思う。地域協議会と公民館が連携して取り組むことができれば素晴らしい。地域の課題等が浮き彫りにされてくることを期待したい。

【石田委員】

事業訪問は、秋の遅い時期でなく、通年の計画の中で選択できると委員の訪問率が上がると思う。半数しか参加していないのは、意識付けが弱かったのではないかと思っている。また、13区を含めた全ての公民館で実施できるように支援していくことが必要だと考える。

【茨木委員】

「ふるさと未来づくり事業」について、どのような内容の講座でも構わないが、冠となるテーマにどう結び付けていくかを常に意識するだけで、結果は変わっていくと思う。参加対象をあまり限定せず、市全体に広報することで、他の地域からの参加者も交え、地域間の相互理解や交流が図られると思うので、ぜひ推進していただきたい。

【小林(英)委員】

「ふるさと未来づくり事業」などは特にだが、市の各課が横につながっていかなければ発展的な未来像は見えてこないように思う。今後を期待する。

【佐藤委員】

社会教育委員による「ふるさと未来づくり事業」の事業訪問にかかる提案に対する検討結果には、さまざまな意見・要望が示されている。その意見・要望は的を射たものと思われるが、そのことにより「ふるさと未来づくり事業」及び参加のハードルが上がるのが危惧される。事業には、目的の明示とその達成のための短期目標、長期目標が設定されることは望ましいと思うものの、それにより、活発に活動を展開している地区の負担が増えるようなことはできるだけ回避したいものだと思っている。

【松井委員】

「ふるさと未来づくり事業」について、本気度を感じた。要約すると資料No.1の2枚目「4. ふるさと未来づくり事業の市の評価」にある、地域の住民団体と参加者が、地域課題と向き合い、解決に向けて行政と役割分担も含め、協働していくよう職員のコーディネート力、または専門家の力を借りて行えるよう期待する。私も住民のひとりとして頑張っていく。

【渡邊副委員長】

市としての検討結果および市の評価を踏まえ、着実に実行していただきたい。特に、職員および公民館主事の事業に対する認識・理解については徹底していただきたい。

(回答)

令和3年度に新規事業として取り組んだ「ふるさと未来づくり事業」について、事業訪問を通じて多くのご意見やご提案をいただきありがとうございます。いただいたご提案等に対する検討結果及びふるさと未来づくり事業に関する市の評価は、会議資料No.1にお示ししたとおりですが、改めて事業にかかわる職員間で情報を共有し、共通認識のもと事業を実施してまいります。

②令和4年度事業計画・予算案について

<「令和4年度 社会教育の方針」について>

【保坂委員長】

「現状と課題」の「多様な学習機会の提供」の中で、「個人の要望に応える学習」だけでなく、「社会の要請に基づく学習」への取組の必要性を指摘している。それを踏まえ、令和4年度の重点事業の中で、「地域課題解決学習」の推進を掲げ、「ふるさと未来づくり事業」の推進を明記している。

このことを公民館主事をはじめ社会教育担当者間で共通理解を図ってほしい。従来言われてきた社会教育の「要求課題」と「必要課題」の側面を今一度再認識してほしい。

【茨木委員】

各項目について具体的に何を実行していくのか、そのあたりが気になる。どのように肉付けされ、どう実行されていくのか、楽しみにしている。

「地域ぐるみの教育の推進」の中で、切れ目のない若者への教育的支援…若者の居場所…。これは若者の定着を図るうえで、働く場所を作るのと同時に重要な課題だと考えている。

若い人達に地元への愛着を芽生えさせる何かを経験させてあげたい。児童減や教職員の不足からくる、尻すぼみ傾向の学校の部活から、地域の社会教育団体活動への移行など、長期的な取組になるだろうが、地域の活性化には必要な手法であると考えます。

(回答)

いただきましたご意見は、「令和5年度 社会教育の方針」作成の際に役立ててまいります。

<令和4年度 予算案・補助金交付事業計画案について>

【茨木委員】

施設の新築や既存施設の改修等の際に考慮いただきたいこととして、設備機器について、どのような機能が必要なのか、使いこなすことができるのか、また、管理・運営を行うためにはどのような人材が必要なのかという点について、実際に施設を利用する人の声を聴いて検討する必要があると考えます。

また、資料No.4「令和4年度 補助金交付事業計画案」により、いろいろな補助事業がある中で、教育委員会が関係している事業がわかった。個々の事業の様子を、どこかで見聞きする機会があればいいと思う。

【佐藤委員】

事業費の対年度増減額の大小にかかわらず、事業概要はほぼ一緒であるが、数百万単位で増減のある事業の増減理由はどのようなものなのか。

【渡邊副委員長】

令和3年度と比べて変更したところや、力を入れて取り組みたいところなど、対面の会議の際に強調して説明したい部分だけでも、別に資料にまとめるなどしていただきたい。

(回答)

今回は、急ぎよ、書面会議とさせていただいたことから、資料内容が不十分でわかりにくいとのご意見がありました。

令和4年度に開催する第1回の会議において、令和4年度の事業内容や事業費の増減理由も含めて説明をさせていただきます。

③その他

【石田委員】

社会教育委員会議は、対面が無理であれば、書面会議ではなく、お互いが見えるオンラインでの開催ができるよう配慮をお願いしたい。

【渡邊副委員長】

書面会議というのは、本来は対面会議よりもずっと対応が難しいものである。今後、書面会議は基本的になしにしてもらいたい。どうしても書面会議にするなら、対面会議を行ったのと同様の成果が得られる手段を講じていただきたい。

(回答)

本会議は、ご案内のとおり当初オンライン参加と会場参加の併催を予定していたところですが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が2月中旬から

急速に拡大したことに伴い、会場参加を予定している委員の皆さんの感染リスクを考慮し書面会議に変更させていただきました。

今後も感染状況を見ながら開催方法について検討してまいります。

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課 TEL : 025-545-9245 (内線 1260)
E-mail : shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。